

評価・評定について

◇「評価・評定」は生徒の豊かな学びを築くためにあります

学習評価は、評価すること自体が目的ではありません。生徒の学習の実現状況を把握するためのものであり、生徒の学習活動を励まし、資質や能力を伸ばすためのものです。評価のための評価となることなく、生徒に学習指導内容が確実に定着するよう、指導と評価の一体化を図ることが大切と考えています。ご家庭でも通知表を通してお知らせする「評価・評定」を「結果」としてとらえるだけではなく、今後の学習目標を設定するための資料としてご活用いただくようお願いいたします。

◇「評価・評定」について

通知表では、各教科の「評価」(A・B・Cの3段階で示す観点別評価)と「評定」(5.4.3.2.1の5段階で示す評定)の2つをお知らせします。

「評価」(観点別評価)

Q. 「観点」とは何ですか？

A. 各教科の学習状況を多面的・多角的にみるために設定されているものです。各教科でスクーリングやレポート作成の学習活動、定期考査を観点ごとに評価します。各教科で学習内容の目標を設定しています。その目標に対する到達度に応じてA、B、Cの評価をします。

| 評価 | 観 点 |
|-------|---------------|
| A・B・C | 知識・技能 |
| A・B・C | 思考・判断・表現 |
| A・B・C | 主体的に学習に取り組む態度 |

「評定」(五段階評定)

Q. 「評定」とは何ですか？

A. 「評定」はその教科の学習状況全体をまとめたものです。3種類の観点別評価を総括し、5、4、3、2、1の数値で示します。

| | |
|---|------------------------|
| 5 | 十分満足できるもののうち、特に高い程度のもの |
| 4 | 十分満足できる |
| 3 | おおむね満足できる |
| 2 | 努力を要する |
| 1 | 一層努力を要する(単位修得不可) |

Q. 「評価（観点別評価）」と「評定」はどのように関係しているのですか？

A. 一例として、3 観点評価「A・A・A」の場合は「4」または「5」、「B・B・B」の場合は「3」、「C・C・C」の場合は「2」または「1」のようになります。それ以外の組み合わせの場合は、適切に総括して判断します。
また、同じ評価であっても教科によって評定は異なる場合があります。評価・評定について疑問点がある場合は、教科担任の先生に問い合わせてください。

Q. 同じ「A・A・A」でも、「4」と「5」があるのはどうしてですか？

A. 同じ A (または B・C) でも、達成度には大きな幅があるからです。

<観点ごと達成度と評価の関係の例>

| | | | | | | |
|------|----|--|----|--|---|--|
| 達成度% | 80 | | 50 | | | |
| 評価 | A | | B | | C | |

<総合達成度と評定の関係の例>

| | | | | | | | | | |
|------|----|--|----|--|----|--|----|--|---|
| 達成度% | 90 | | 80 | | 50 | | 20 | | |
| 評価 | 5 | | 4 | | 3 | | 2 | | 1 |

評価・評定についてご不明な点がございましたら、担任や教科担当者にお申し出ください。また、保護者懇談の際にも詳しく説明させていただきます。